

令和4年度第1回総合教育会議 会議録

1 日 時 令和4年6月3日(金) 午後3時00分～午後4時10分

2 場 所 三島市役所中央町別館4階 第1会議室

3 出席者

(構成員)

豊岡市長、西島教育長、安藤委員、草間委員、飯島委員

(説明者他)

鈴木教育推進部長、渡辺学習環境整備統括監、杉山教育総務課長、中村学校教育課長、若林生涯学習課長、米山図書館長、寺田文化財課長、長島子ども保育課長、飯田企画戦略部長

(書記)

高梨教育総務課総務係長、大角教育総務課主査

4 傍聴人の数 0人

5 協議または報告に係る事項

- (1) 教育に関する大綱と教育振興基本計画について
- (2) リスクマネジメント～子どもの命を守る～

6 発言者及びその要旨

(1) 開会

(2) 市長あいさつ

本日はお忙しい中、当会議にご出席賜りありがとうございます。

「総合教育会議」は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、平成27年度から設置されたものです。今回も、活発な議論をしていただけたら幸いです。

この改正された地教行法には、総合教育会議において大綱の策定に関する協議を行うことが定められています。三島市の大綱は、平成28年3月に策定され、策定から5年以上が経過しております。また、三島市学校教育振興基本計画の計画期間が今年度で終了となり、今年度は次の10年を見据えた計画を策定する必要があります。そこで令和4年度第1回目の総合教育会議は、「教育に関する大綱と教育振興基本計画」をテーマといたしました。近年、社会を取り巻く情勢はめまぐるしく変化してお

り、それは教育の分野も例外ではありません。GIGA スクール構想に始まる ICT 機器やオンライン授業の急速な普及、少子高齢化の予測を超える進行、新型コロナウイルス感染症や大規模災害などの非常事態など、変化が激しく見通しが立たない社会を子どもたちは生きていかなければなりません。こうした状況であるからこそ、子どもたちの才能を伸ばし、健やかに成長できるよう支えていかなければなりません。未来を担う子どもたちが安全安心に、希望をもって学び続けられるよう、三島市としての教育の方針について皆様と意見交換を行いたいと思います。

また、例年同様、リスクマネジメントとして、いじめの調査結果についてもご報告申し上げます。委員の皆様方には、忌憚ないご意見を賜りますようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

(3) 議題 1

教育に関する大綱と教育振興基本計画について

(豊岡市長)

それでは、本日の議題に入ります。本日1つ目の議題は「教育に関する大綱と教育振興基本計画について」でございます。冒頭の挨拶でも述べましたが、教育の大綱と教育振興基本計画は、新たに策定する時機を迎えています。三島市では、最上位計画として「第5次三島市総合計画」が策定されておりますが、この計画を構成する「教育・文化」分野を具現化するものとして、現行の「大綱」や「三島市学校教育振興基本計画」が定められています。この「教育振興基本計画」の中の目標や施策の方針の部分が「教育に関する大綱」と位置付けることができるものと考えていますが、まずは現行の計画の概要や次期計画について説明させていただき、委員の皆様にご意見を伺いたいと思います。では、事務局から説明をお願いします。

(杉山教育総務課長)

教育総務課長から、以下の項目に関する説明があった。

- 【教育に関する大綱とは】
- 【教育振興基本計画とは】
- 【法律上の位置付け】
- 【大綱と教育振興基本計画の関係】
- 【現行の大綱】
- 【現行の三島市学校教育振興基本計画】

(杉山教育総務課長、長島子ども保育課長、中村学校教育課長)

各課長から、現行の三島市学校教育振興基本計画の検証について説明があった。

(杉山教育総務課長)

教育総務課長から、以下の項目に関する説明があった。

- 【次期計画の概要】
- 【次期計画の位置付け】

- 【第5次総合計画】
- 【教育を取り巻く現状と課題】
- 【国の教育振興基本計画】
- 【県の教育振興基本計画】
- 【県の計画における基本方針】
- 【国と県の計画における基本方針】

(安藤委員)

計画策定のスケジュールを伺いたい。

(杉山教育総務課長)

最終的な策定は、令和5年2月頃を目途に進めていく。

(飯島委員)

教育振興基本計画を策定し、それを大綱に代えるという考えに賛成である。

第5次総合計画の基本目標である、未来につなぐ人材を育むまちという目標はとても良いと思う。民間企業がこれからの考えるとき、SDGsというキーワードは外せない考え方となっており、民間企業も街づくりに参画しなければいけないと思っている。この街で働いてくれる人を育てなければいけないと考えている。そのために、これからも職場体験学習には大いに協力していきたいと思っている。いわゆる産官学で街づくり、人づくりを行っていけるような体制を築いてもらいたいと思う。

(草間委員)

幼児から小学校低学年だけでなく、小学校中学年から高学年といったように世代をこえた交流を大切にしていってほしい。先生方も大変だと思うが、専門教諭だけでなく、一般の教諭にも発達障害に関するある程度の専門的な知識を身に付けてほしい。より細かな配慮ができるような体制づくりをしてほしい。

(豊岡市長)

計画策定にあたっては、引き続き委員の皆様にご意見をいただきたいと思う。よろしくお祈りしたい。大綱は法律上義務付けがあるが、教育振興基本計画は義務付けとはなっていない。ただし、教育振興基本計画を策定した場合は、それを大綱に代えることができることになる。委員の皆様には、教育振興基本計画の策定をもって大綱に代えるということに了承いただけたと思うがいかがか。

(各委員)

異議なし。

(4) 議題2

リスクマネジメント～子どもの命を守る～

(中村学校教育課長)

以下の事項について説明をした。

【いじめの認知件数】

【いじめの現在の状況】

【いじめの発見のきっかけ (件数)】

【いじめの態様 (件数)】

【令和3年度いじめ定期報告 (第4期) の傾向】

(安藤委員)

認知件数が多いというのは、先生方が子どもの声に耳を傾けるなど、とても細やかに子どもの様子に気を配ってきた努力の成果だと思う。ぜひ今後も認知を大事にするという方針を続けていただきたい。

(飯島委員)

いじめの発見のきっかけの件数の中に、「アンケート等で発見」という項目があるが、アンケートの場合、いじめられていると自分で申し出る場合と、他の児童生徒がいじめられているところを見たという場合があると思うが、どちらの方が多いか。

(中村学校教育課長)

小学生の場合、自分で申し出る場合が多いが、それだけではなかなか見つけられないことがあるので、いじめを見たことがあるかを問う項目を設け、個別に丁寧に発見を進めている。

(飯島委員)

引き続きアンケート項目の工夫をお願いしたい。また、いじめの発見や対応についていろいろやっただいているとは思いますが、市内の情報共有だけでなく、他の市町等との情報共有を行っていただき、様々なケースに対応できるようにしていただきたい。

(草間委員)

どの程度からいじめと感じるかは人によって違うと思うので、いじめも細かく分けられるようになってきていると思うが、家庭で保護者の方が気づくこともあれば、やはり学校

生活が長いので、先生方や子どもたち同士での見守りや気づきができるようにすることが大事だと思う。早く認知できれば、対応も早くできるし、心のケアも早く対応できるようになると思う。

(豊岡市長)

いじめの態様件数で、PC・SNSでの中傷が意外と少ないように思うがどうか。

(中村学校教育課長)

あくまでも認知できた件数となる。SNS等でのいじめはなかなか発見しにくいという現状がある。その部分については、学校側も保護者もアンテナを高くしていただいて発見を進めていくことが大事だと思っている。

(豊岡市長)

学校だけでなく、いじめについて保護者に考えていただくことはとても大事なことだと思う。コロナの影響によるいじめの報告は増えているか。

(中村学校教育課長)

特にコロナの影響による誹謗中傷等のいじめの報告は上がってきていない。各学校でも誰もが感染する状況にあることは繰り返し伝えており、子どもたちも理解していると考えている。

(豊岡市長)

コロナウイルス感染症が流行りはじめの頃とは状況が違ってきていると思うが、今後もまだ感染するリスクがある以上、先生方には感染対策はもちろん誹謗中傷など子どもたちへの配慮や指導も引き続きお願いしたい。

(豊岡市長)

いじめについて、子どもたちを取り巻く状況は刻々と変化している。今後もいじめの芽の早期発見に努めることともに、丁寧に対応していくことが大変重要と考える。委員の皆様にも今後ともご指導いただきたい。

(5) その他

(豊岡市長)

本日の議題は以上であるが、今年度の事業計画等について事務局から説明をお願いする。

(杉山教育総務課長)

教育総務課長から、今年度予定している主な学校施設の改修について説明があった。

(6) 閉会

(西島教育長)

三島市学校教育振興基本計画が10年目を迎え、新たな計画を策定する年に教育委員の皆様からご意見を賜って、計画と大綱を兼ねるという大きな方針を承認していただいた。細かな方針については、その都度ご相談してご意見を賜りたいと思う。いじめの件については、多くの案件を認知したことは、教員の努力の結果であると大変あたたかなご意見をいただいた。その一方において、いじめの要因となるものとして、コロナ禍による閉塞状況による子どもたちの見えない心の変化があるかどうか注視していかなければいけないと思っている。教育政策研究所の調査の中に、いじめもしないいじめられもしないというのは、ほんの1割であるという調査結果がある。状況によって児童生徒がいじめる側になったりいじめを受ける場合があったり、非常に変動的・流動的だと調査結果は示している。そのようなことも踏まえた上での児童生徒への指導が必要だと考える。

(豊岡市長)

以上をもちまして、令和4年度第1回総合教育会議を閉会します。活発な議論をいただき、ありがとうございました。